

東京の河川と水系

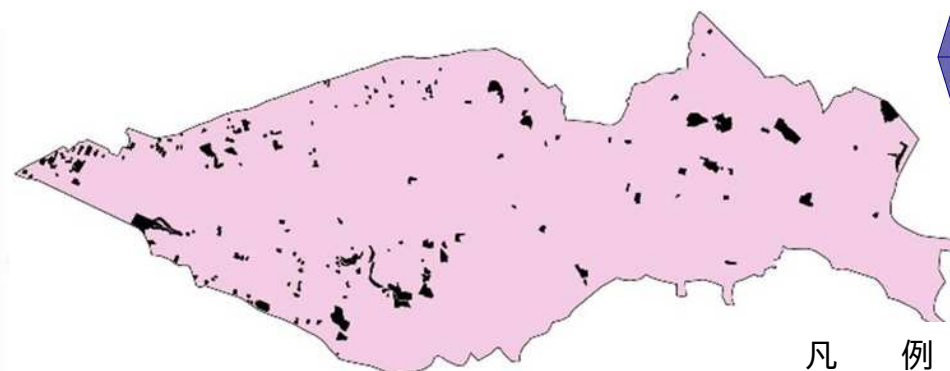
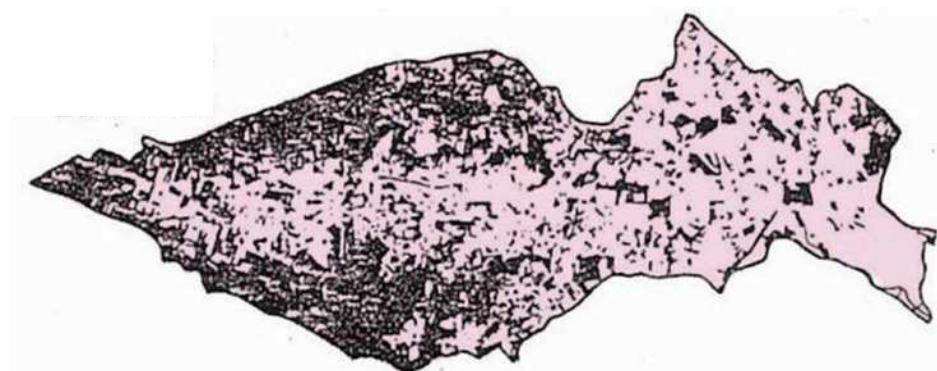


神田川の都市化

● 神田川流域市街化変遷図

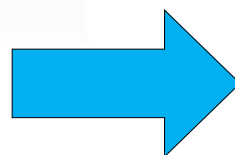
昭和20年代初期（市街化率約60%）

平成15年（市街化率約97%）



凡 例

市街地
自然地（田畑等）



○雨水は地下に浸透

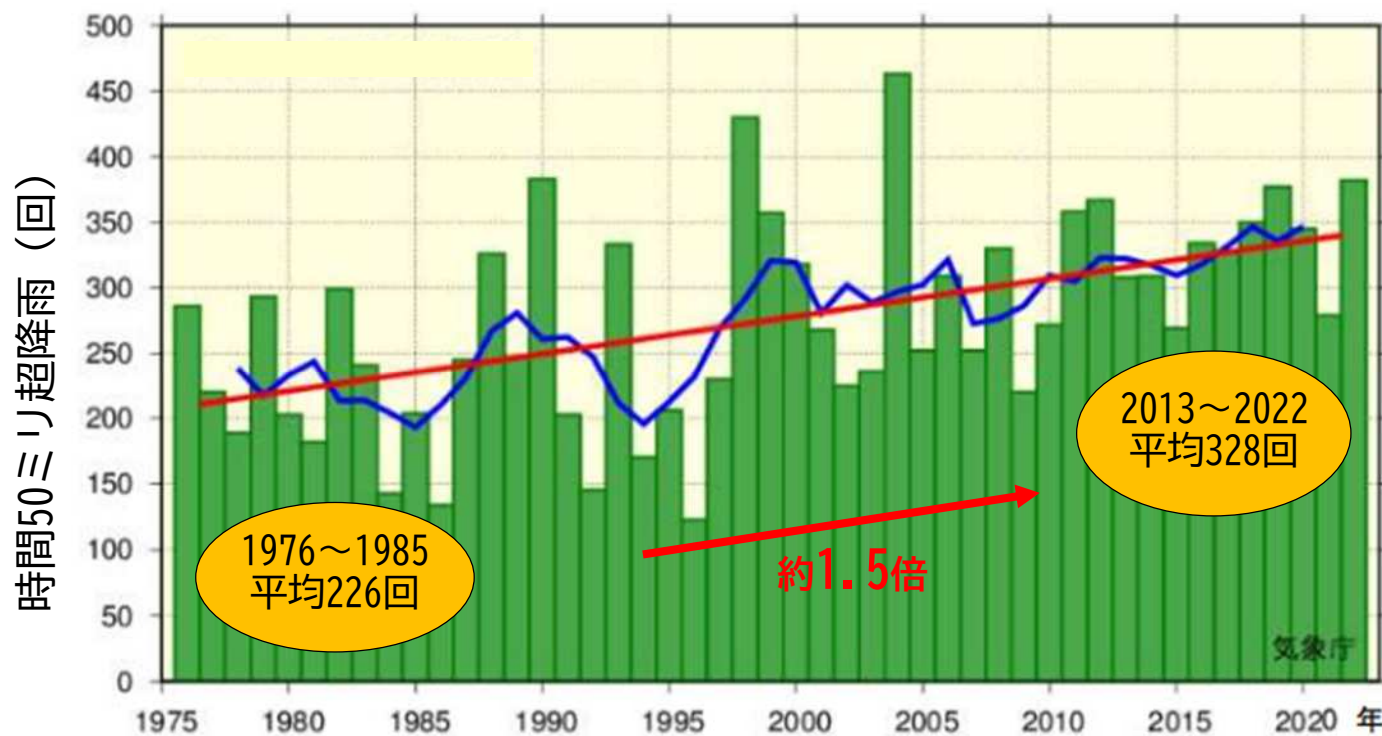
○河川に流れ込む表流水は抑制

○開発により不浸透域が増大

○短時間に多量の表流水が河川に流入

近年の降雨状況の変化

■ 1時間に50ミリを超える降雨の回数

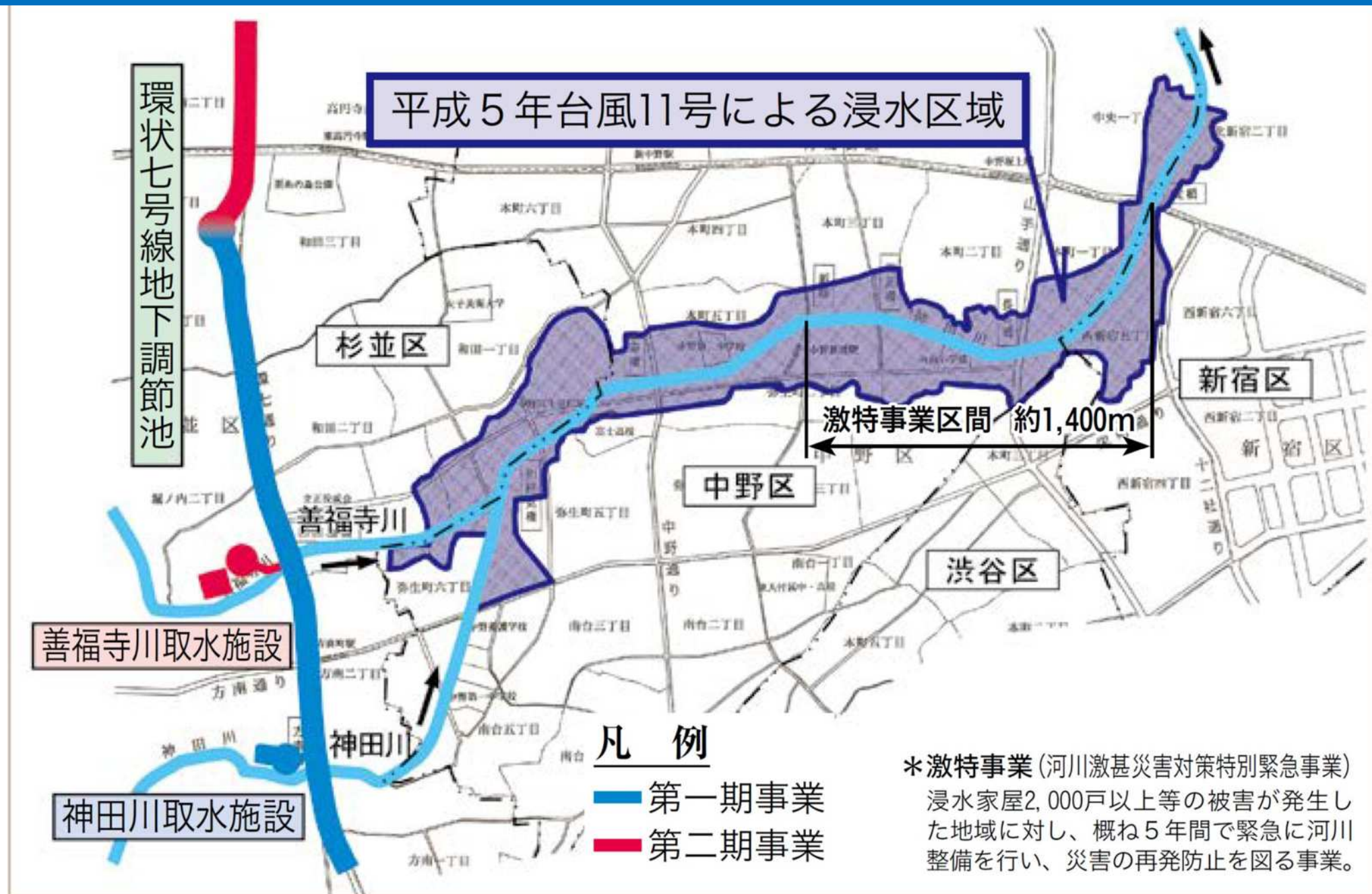


棒グラフ（緑）は各年の年間発生回数、折れ線（青）は5年移動平均値、直線（赤）は長期変化傾向を示す
データ出典：気象庁 HP「大雨や猛暑日など（極端現象）のこれまでの変化」

今後も、1時間に50ミリを超える降雨（台風や雷雨性の局地的集中豪雨）の増加が予測され、水害リスクは益々高まっていく

降雨状況の変化への対応が急務

過去の水害記録



河川整備の考え方

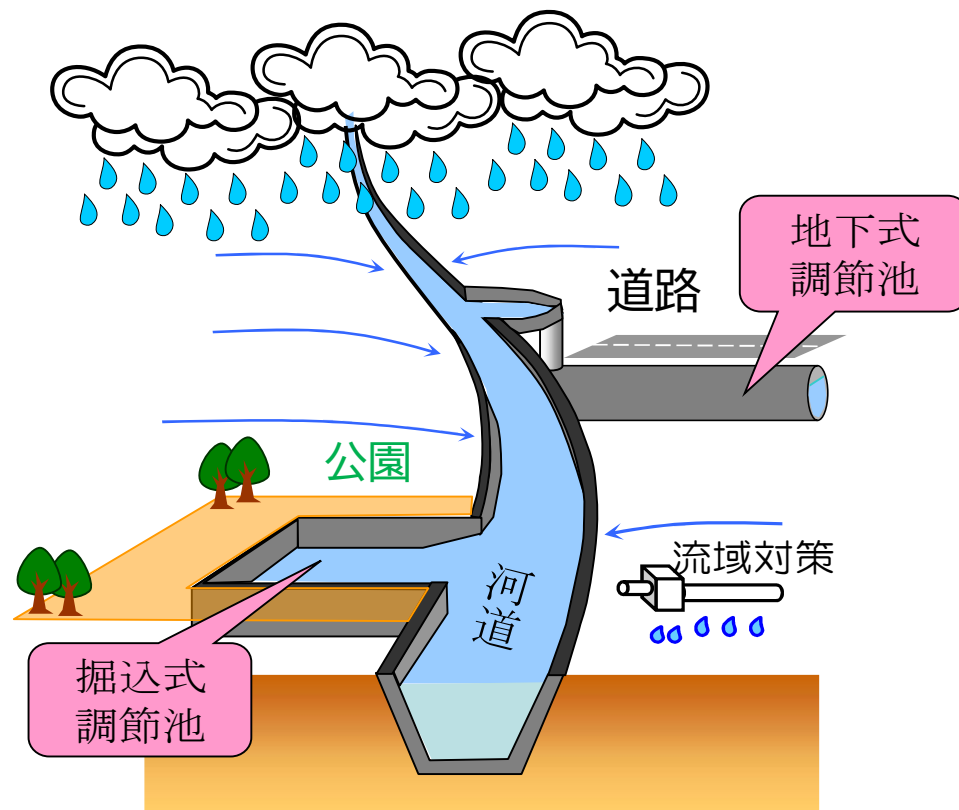
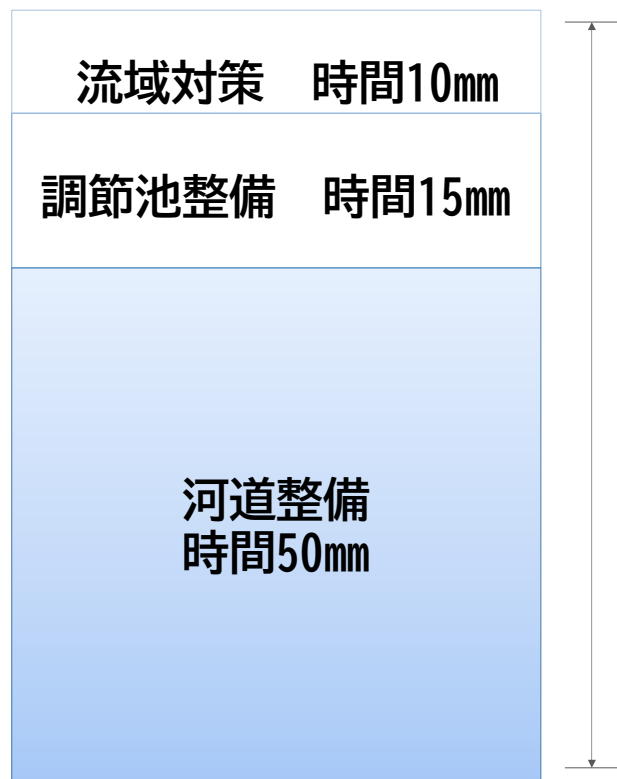
目 標 : 年超過確率1/20規模※の降雨に対し、河川からの溢水を防止 (※区部では時間75mm)

整備方針 : 時間50mm降雨まで

▶ 河道整備で対応

時間50mmを超える降雨

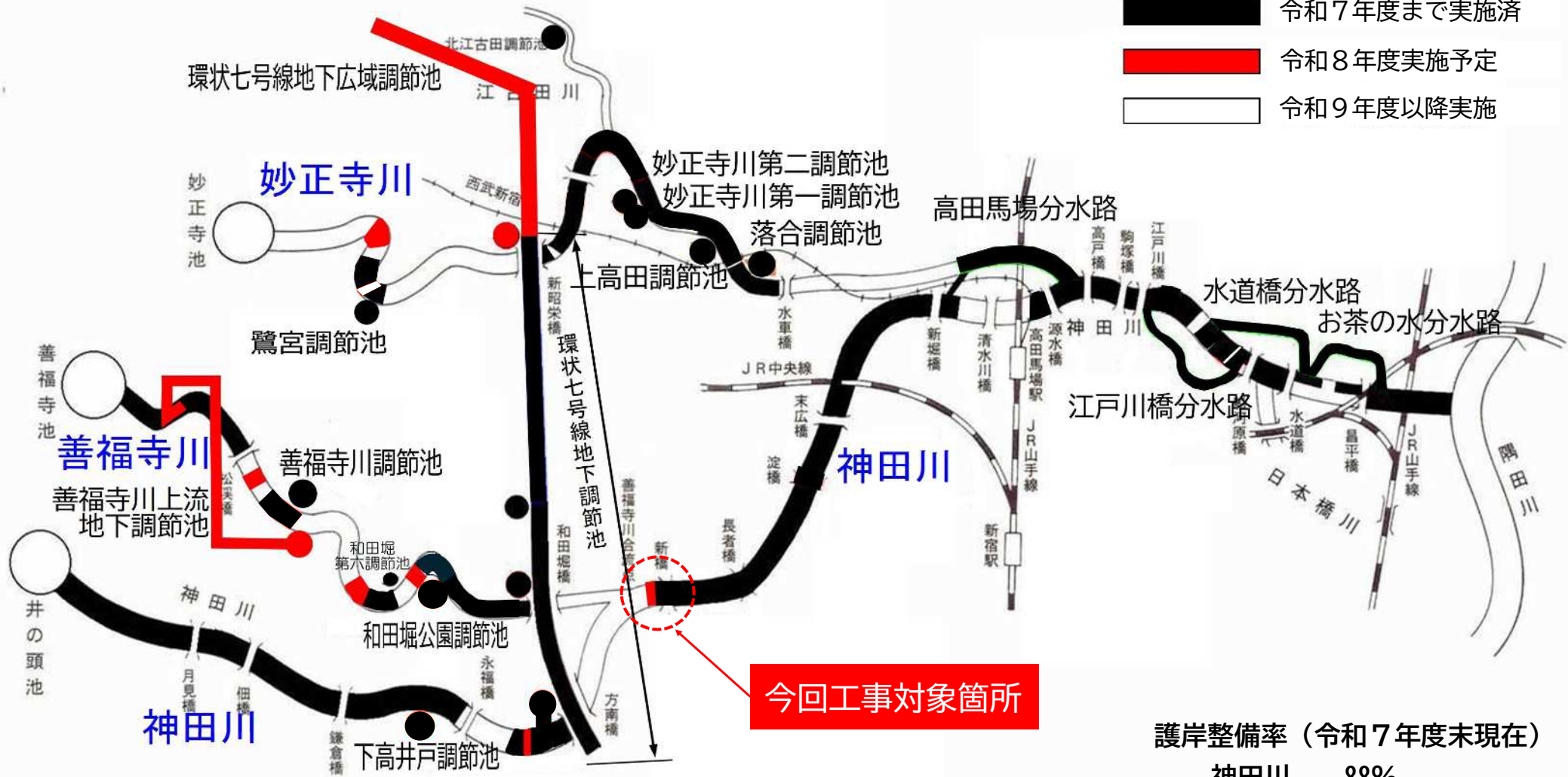
▶ 調節池及び流域対策で対応



神田川流域の整備状況

凡 例

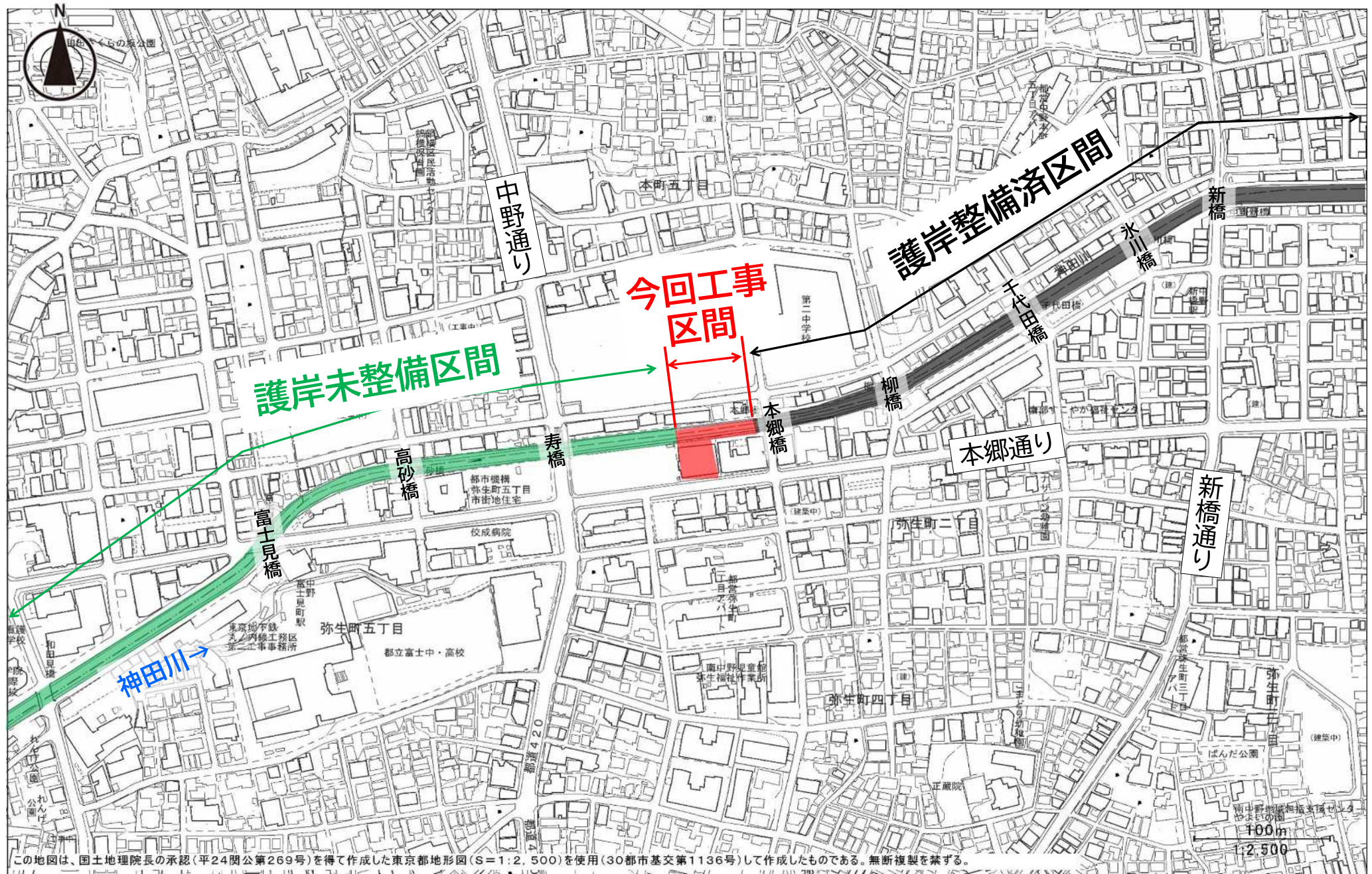
- 令和7年度まで実施済
- 令和8年度実施予定
- 令和9年度以降実施



護岸整備率（令和7年度末現在）

神田川	88%
妙正寺川	47%
善福寺川	63%

今回の工事範囲



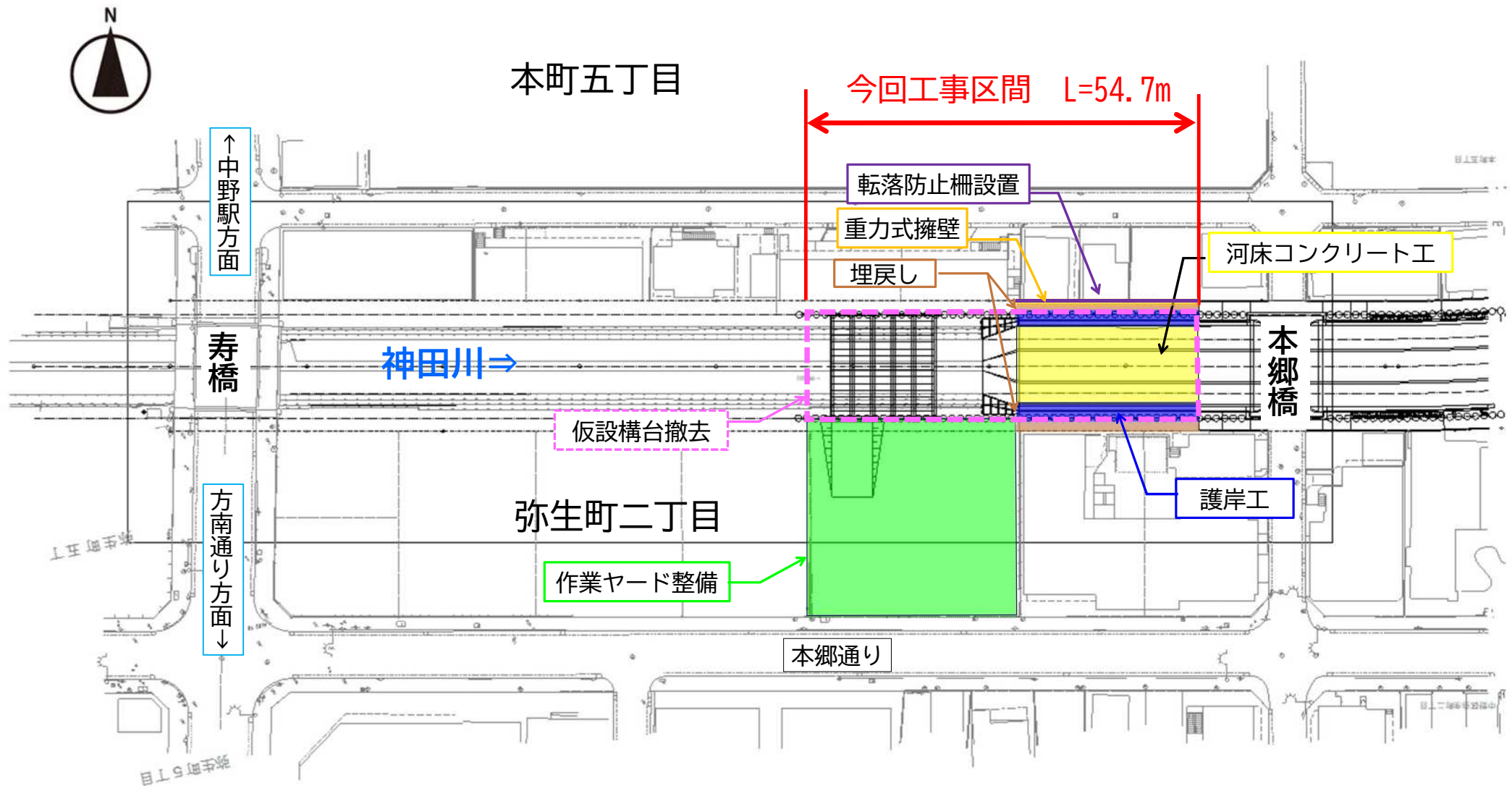
作業時間および工事期間

- ・作業時間 午前 8：00 から 午後 6：00
- ・工事期間 令和8年7月下旬から令和9年2月下旬まで（予定）
※土曜・日曜日・祝日は原則作業を行いません。

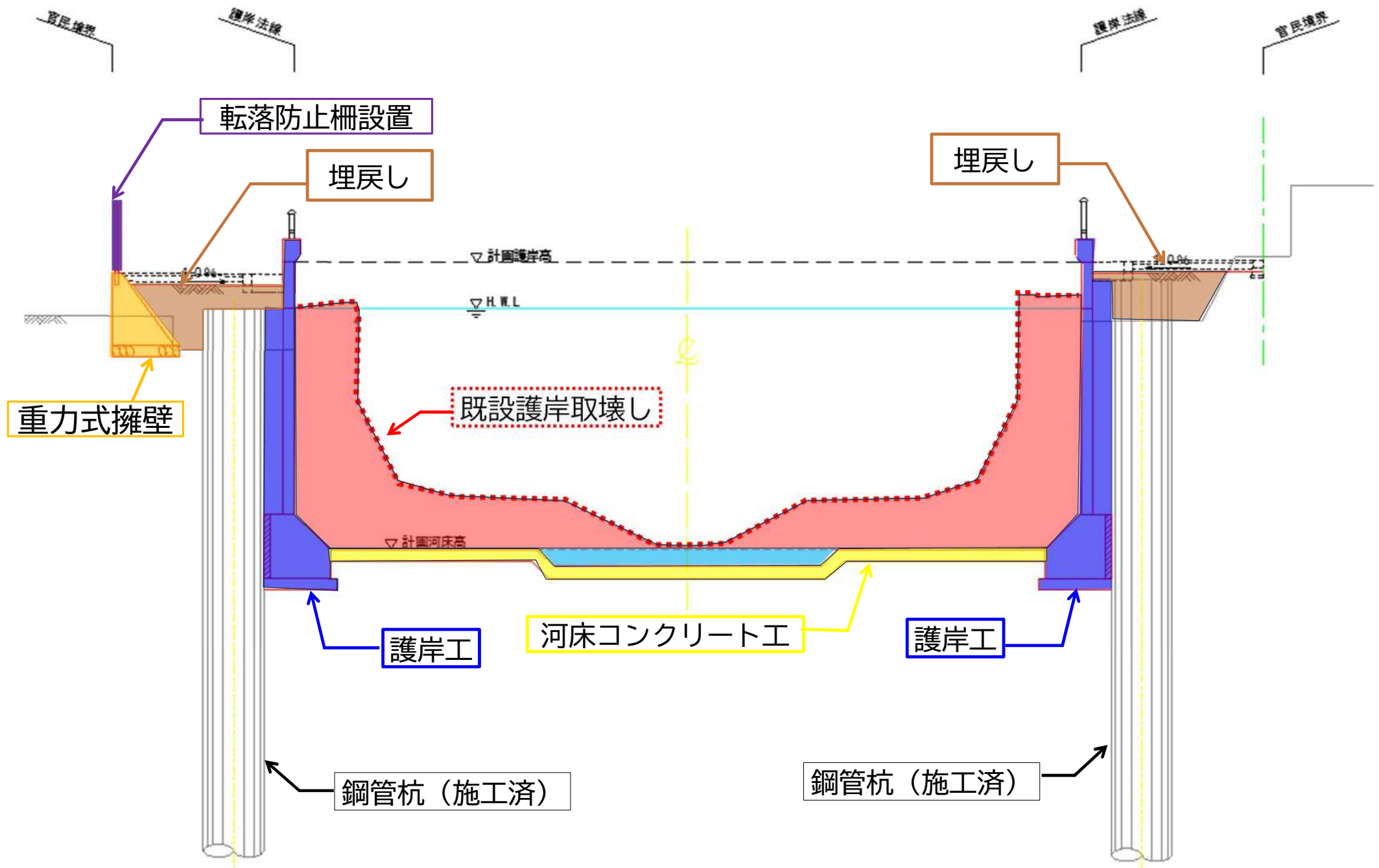
全体工程表（予定）

	令和8年												令和9年		
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
準備工	■	■	■												
作業ヤード整備工			■	■	■							■			
既設護岸取壊し ・掘削工（土砂搬出）				■	■	■	■		■						
護岸工 河床コンクリート工				■	■	■	■	■	■	■					
仮設構台撤去						■	■	■	■		■				
重力式擁壁工					■	■									
埋戻し工 転落防止柵設置									■	■					
片付け												■	■	■	

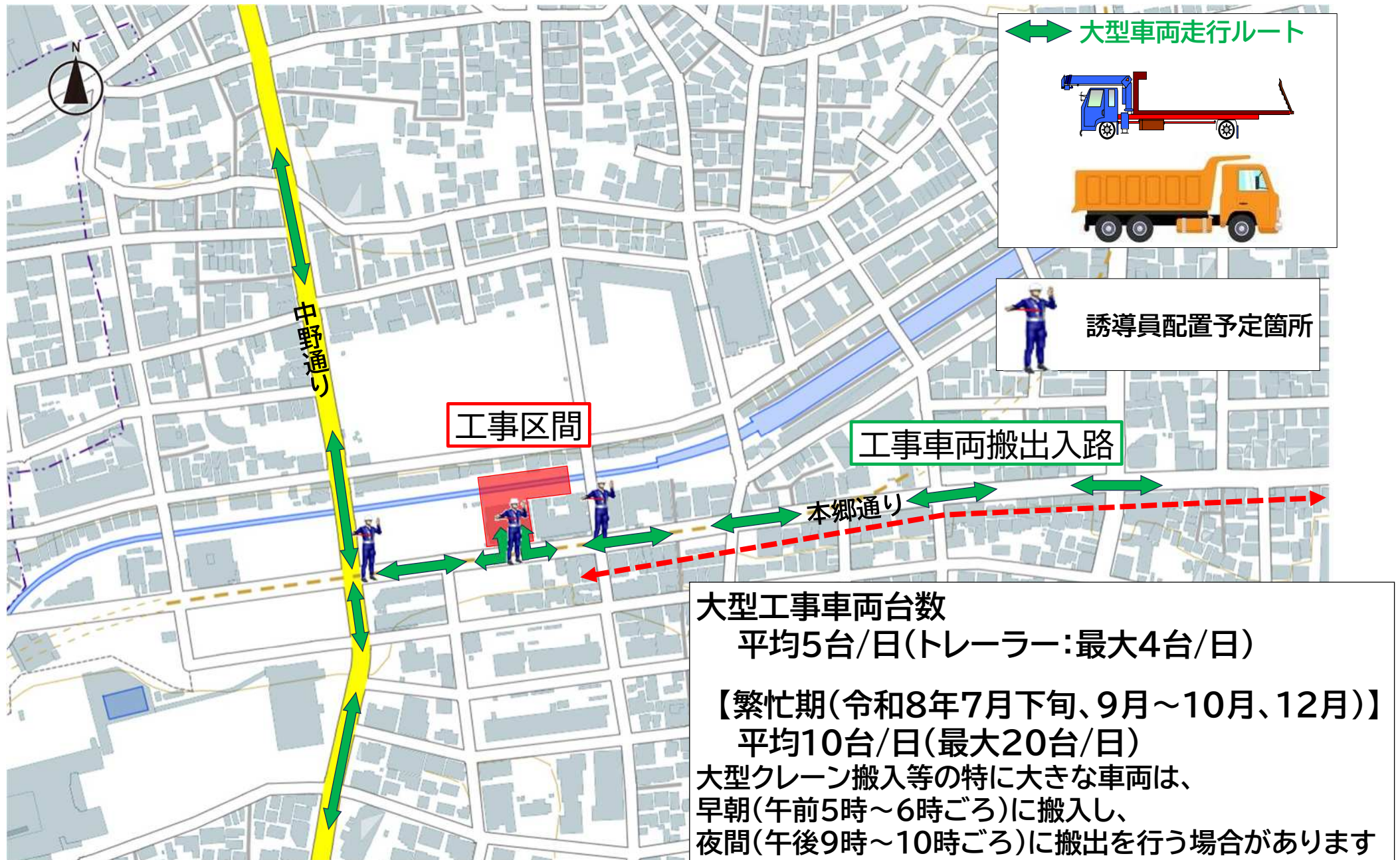
全体平面図



標準断面図



工事車両走行ルート

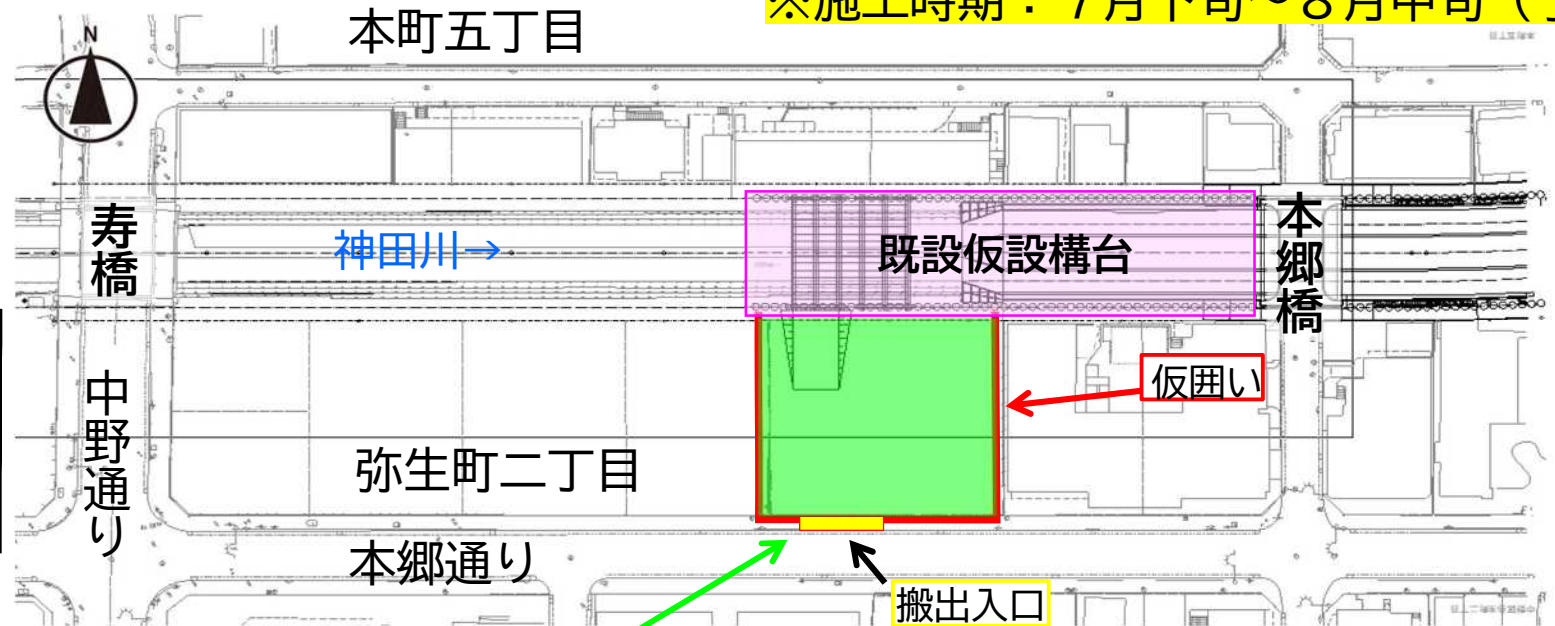


出典：地理院地図ウェブサイト

施工フロー【①作業ヤード整備】

作業ヤードを整備し、周囲に仮囲い（右下図・赤色）を設置します。

※施工時期：7月下旬～8月中旬（予定）



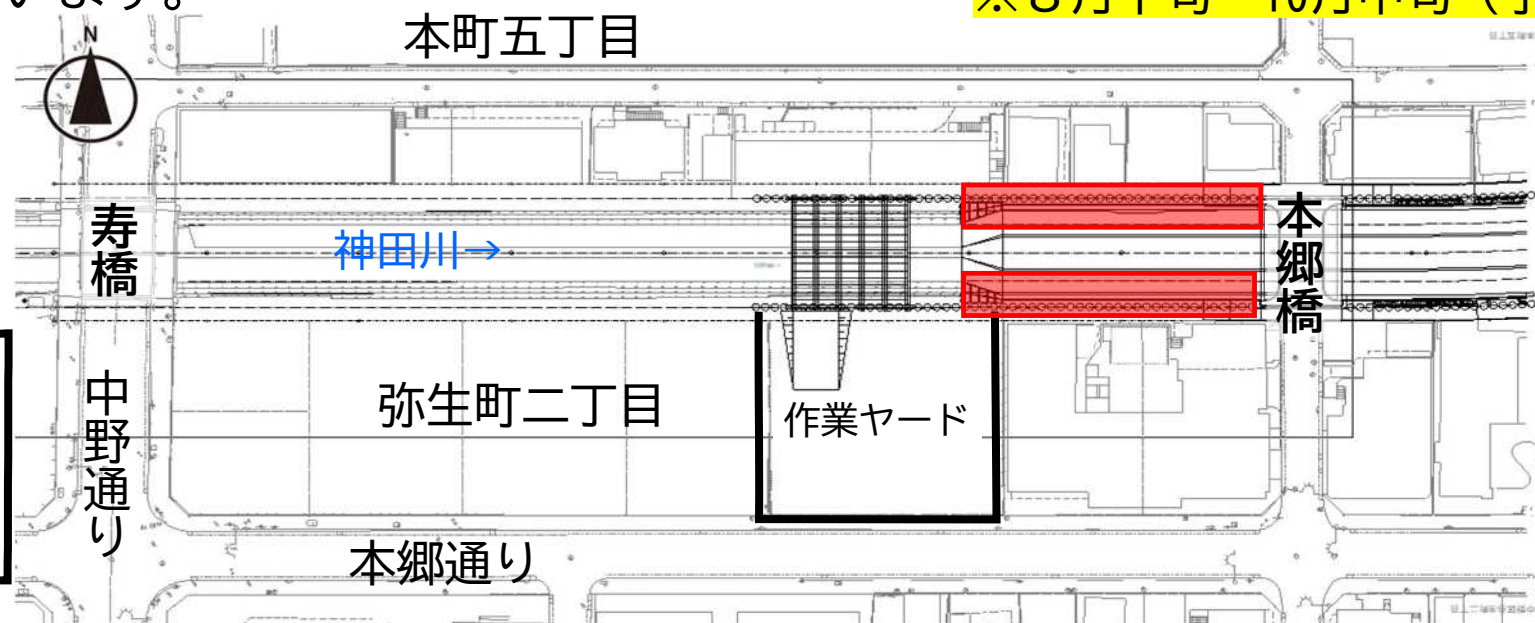
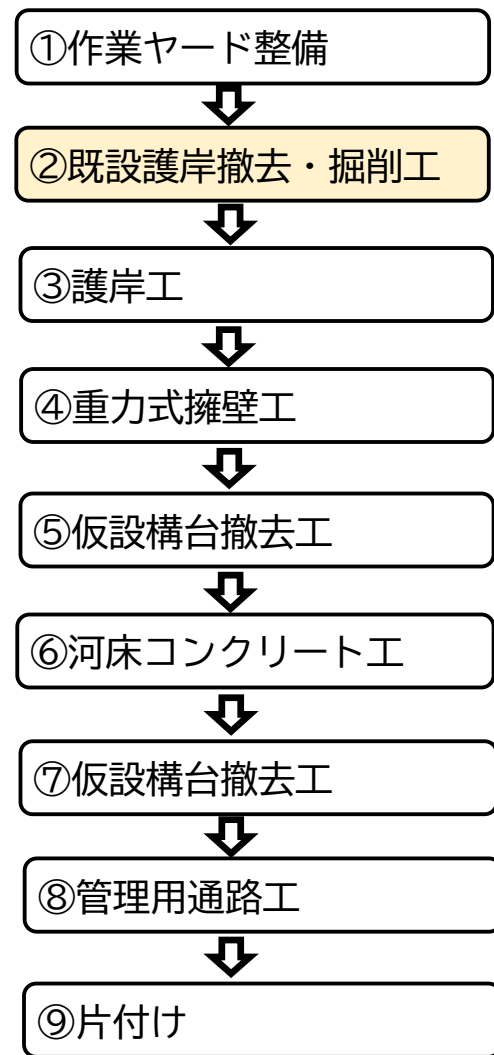
搬出入口乗入部の整備、基盤整備、乗入坂路設置を行います。



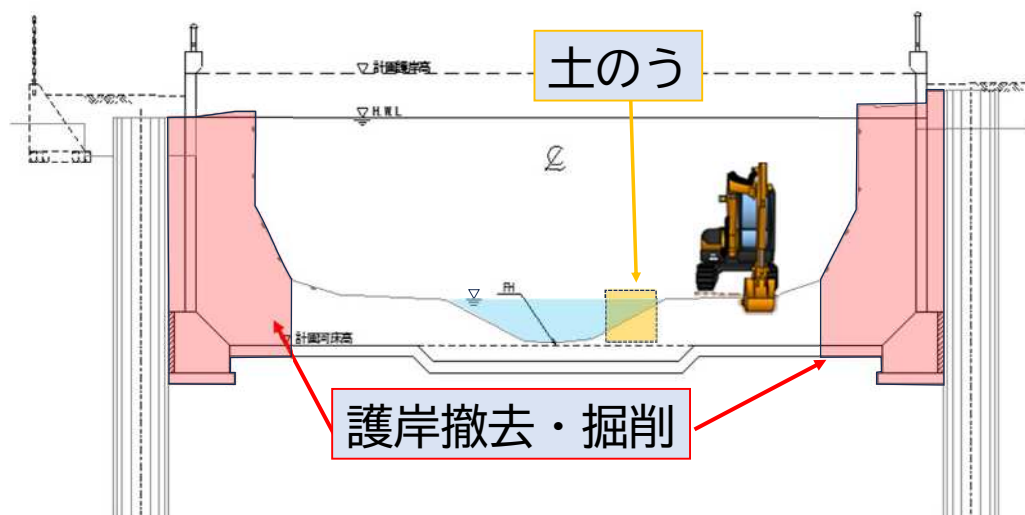
施工フロー【②既設護岸撤去・掘削工】

護岸パネル設置に先立ち、土のうによる河川の切回し（下流側のみ）を行い、既設護岸取壊し・掘削を行います。

※8月下旬～10月中旬（予定）



〈断面図〉 ※取壊し作業は低騒音・低振動型の機械を採用

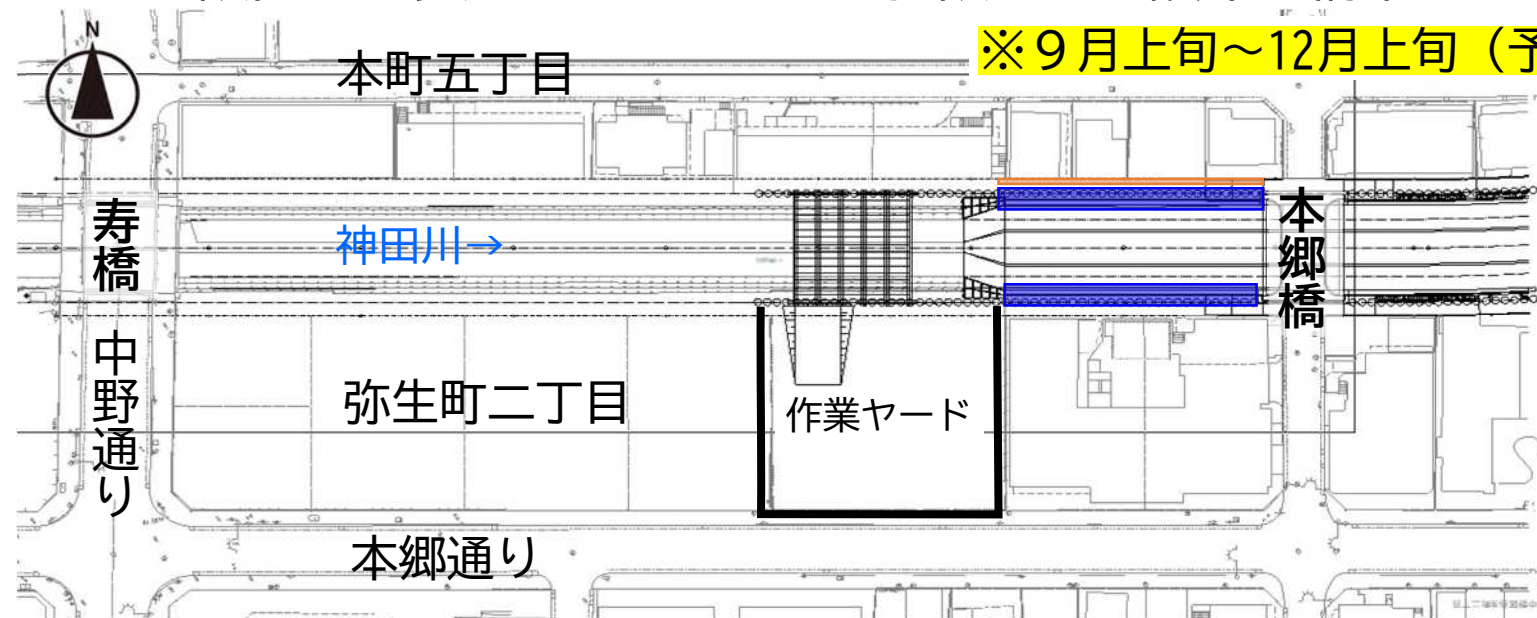


護岸撤去状況（イメージ写真）

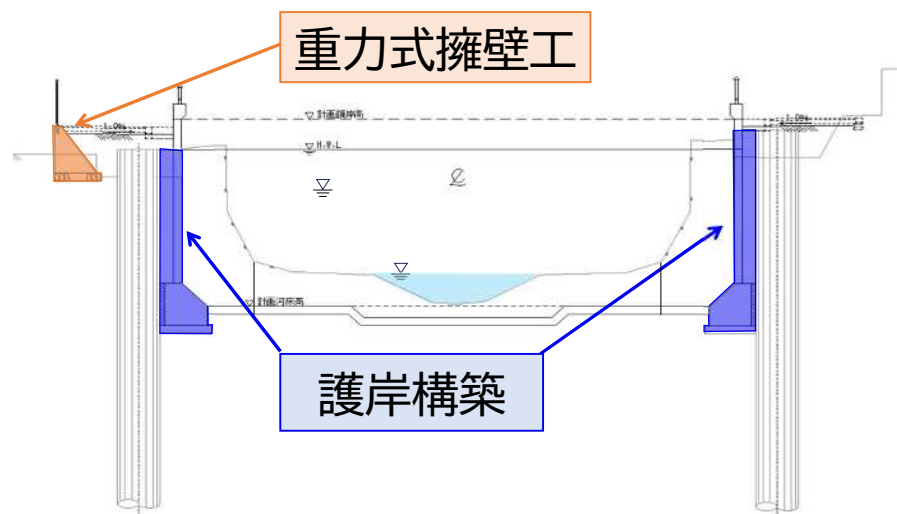
施工フロー【③護岸工④重力式擁壁工】

掘削完了後、護岸基礎ブロックを設置します。護岸基礎ブロック基礎設置区間の仮設構台を撤去後、護岸パネルを設置し、裏込コンクリートを打設して、護岸を構築します。

※9月上旬～12月上旬（予定）



〈断面図〉

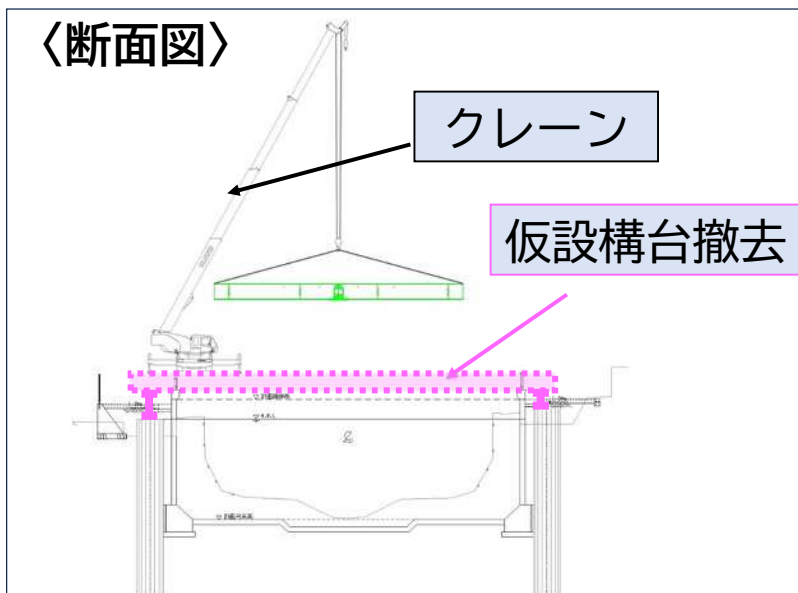
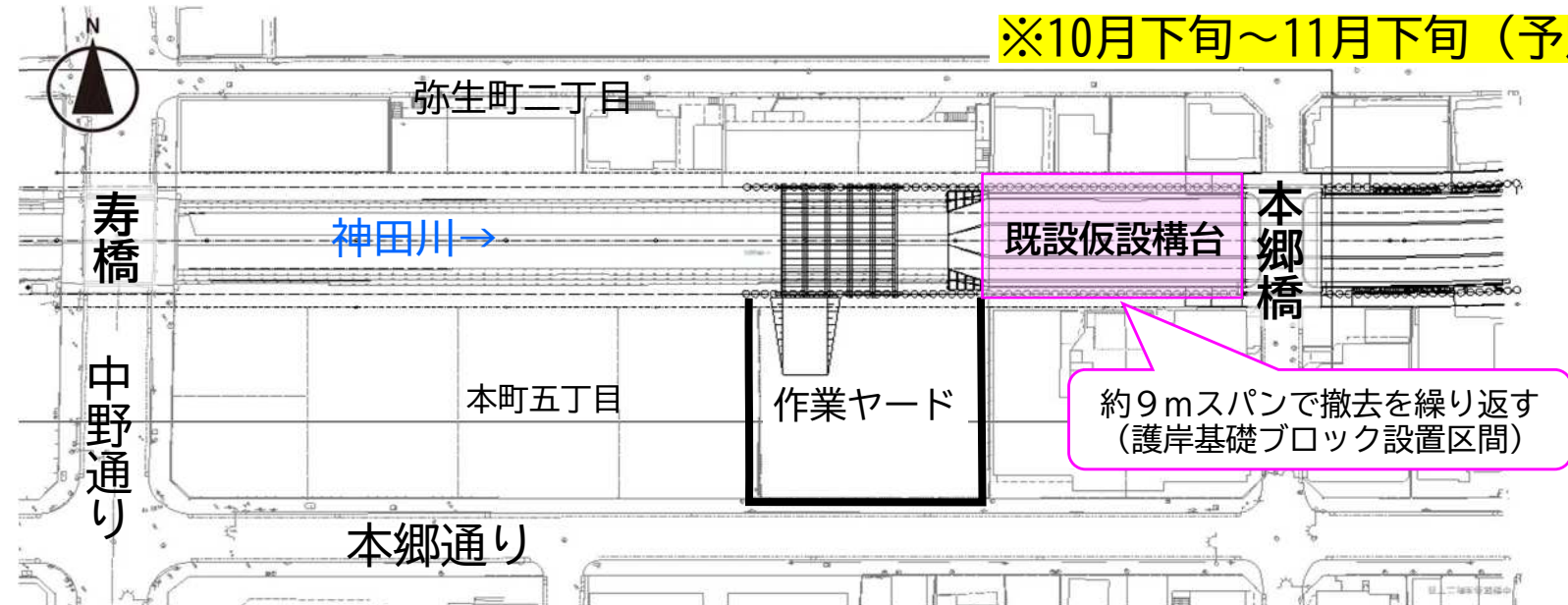
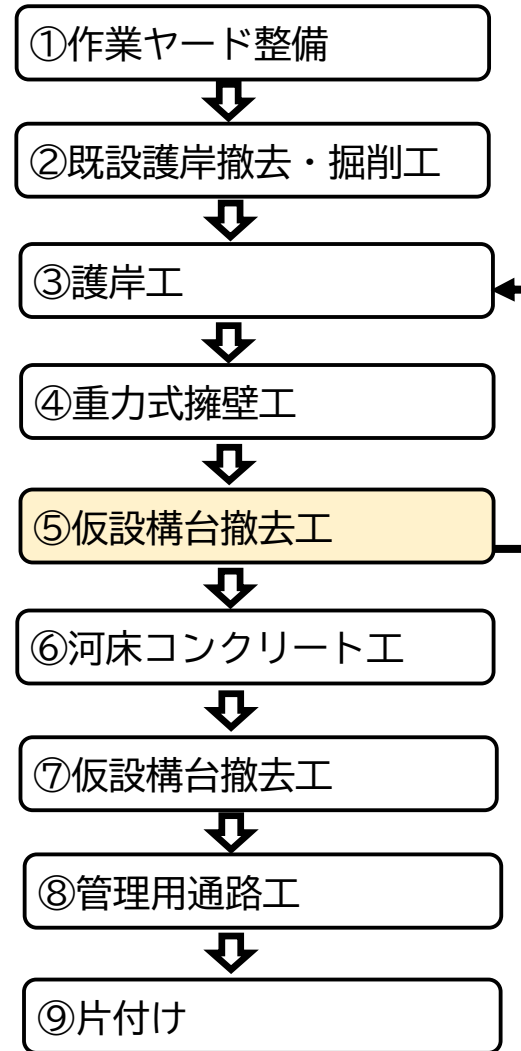


護岸パネル施工状況（イメージ写真）

施工フロー【⑤仮設構台撤去工（下流部）】

護岸基礎ブロック設置完了後、約9 m区間の仮設構台を撤去し、護岸構築を行います。
この工程を下流より順次、上流に向かって3回繰り返します。

※10月下旬～11月下旬（予定）

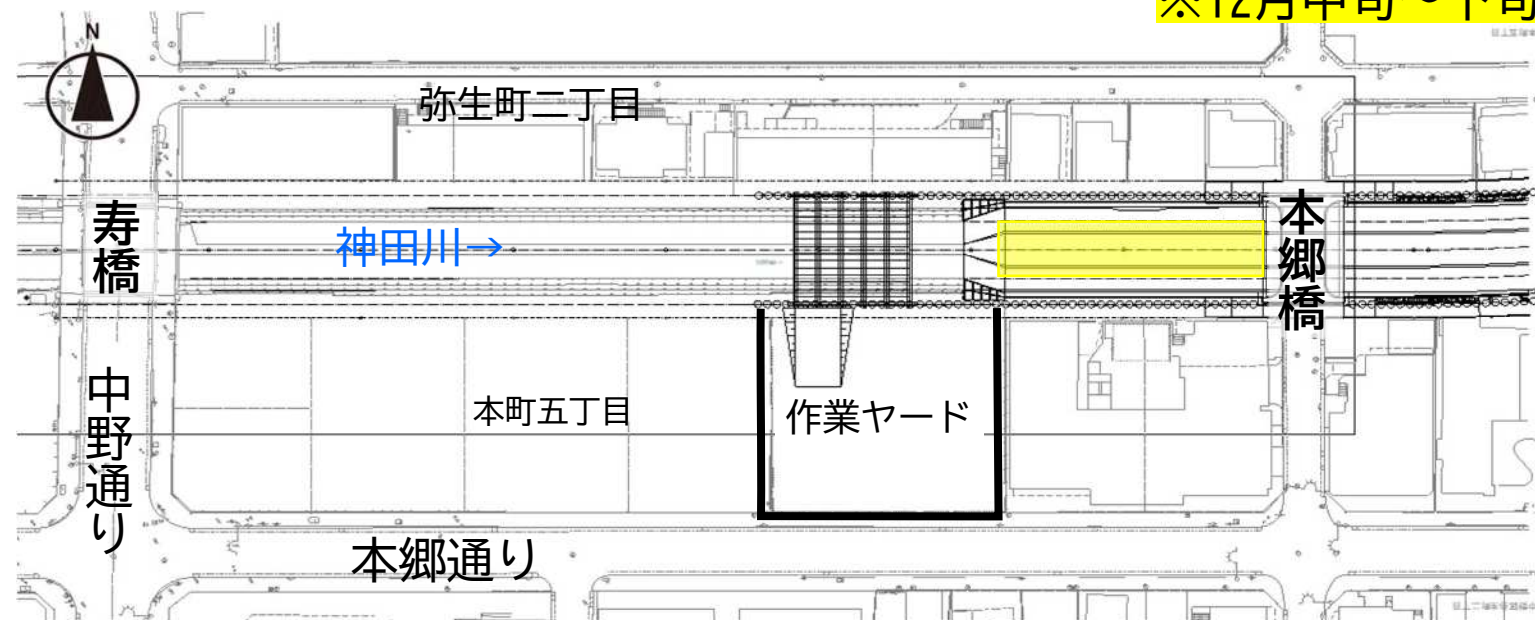


仮設構台撤去状況（イメージ写真）

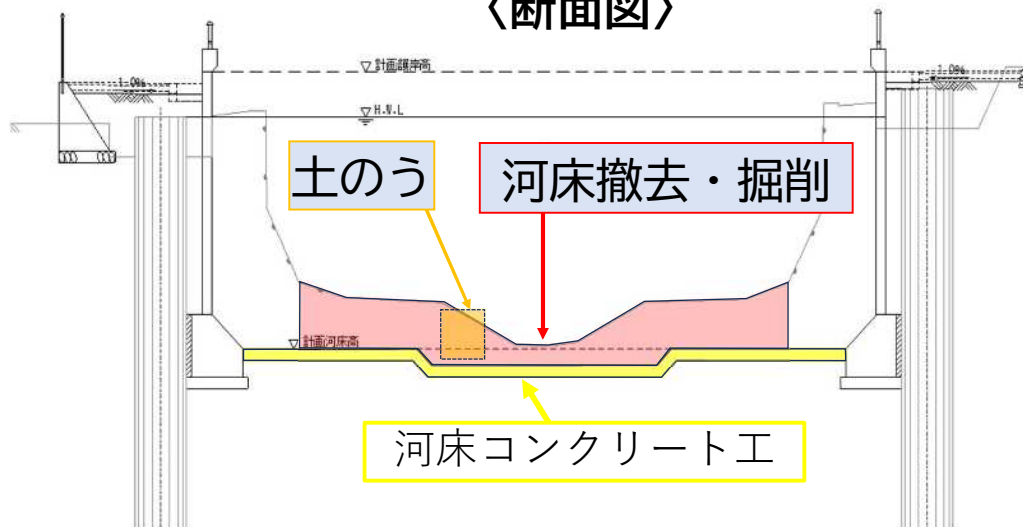
施工フロー【⑥河床コンクリート工】

河床撤去・床付け後、布製型枠を敷設し、コンクリートを打設します。

※12月中旬～下旬



〈断面図〉



河床コンクリート（イメージ写真）

施工フロー【⑦仮設構台撤去工（上流部）】

過年度工事で設置した仮設構台を全て撤去します。

※R 9年1月上旬～中旬（予定）

①作業ヤード整備



②既設護岸撤去・掘削工



③護岸工



④重力式擁壁工



⑤仮設構台撤去工



⑥河床コンクリート工



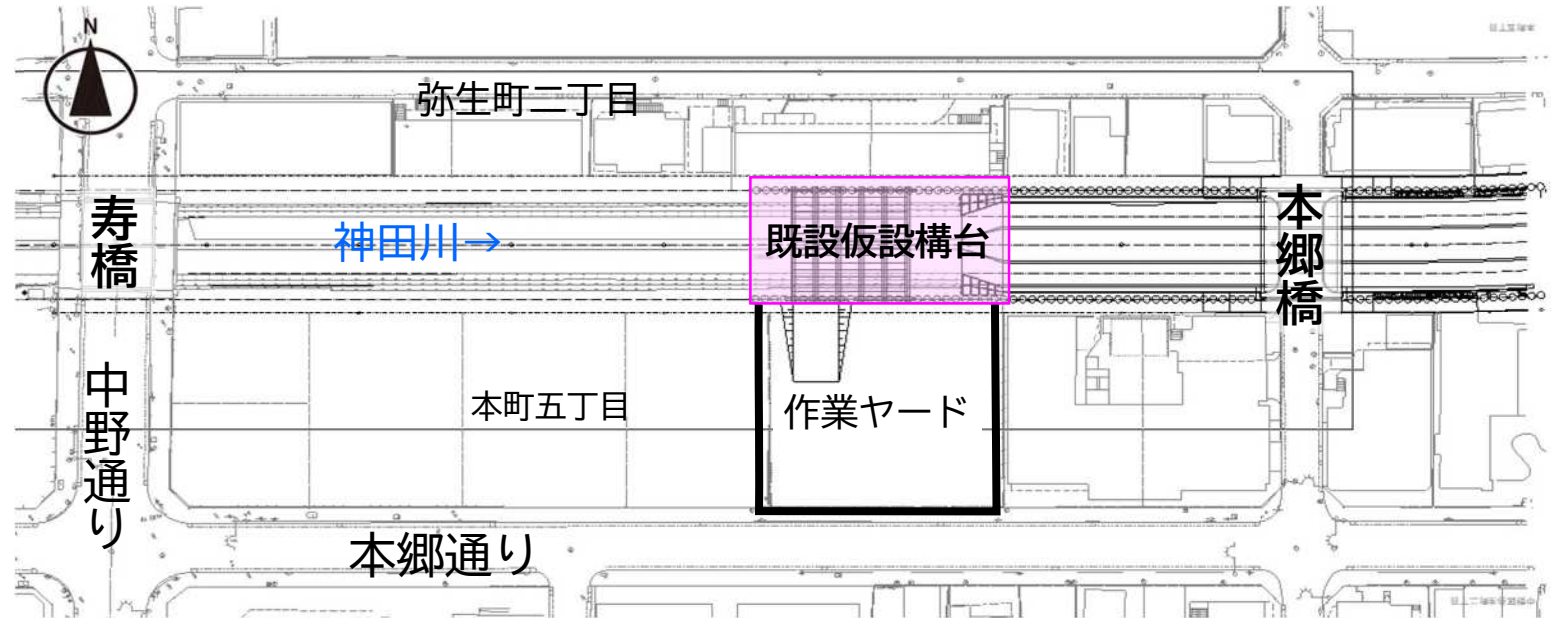
⑦仮設構台撤去工



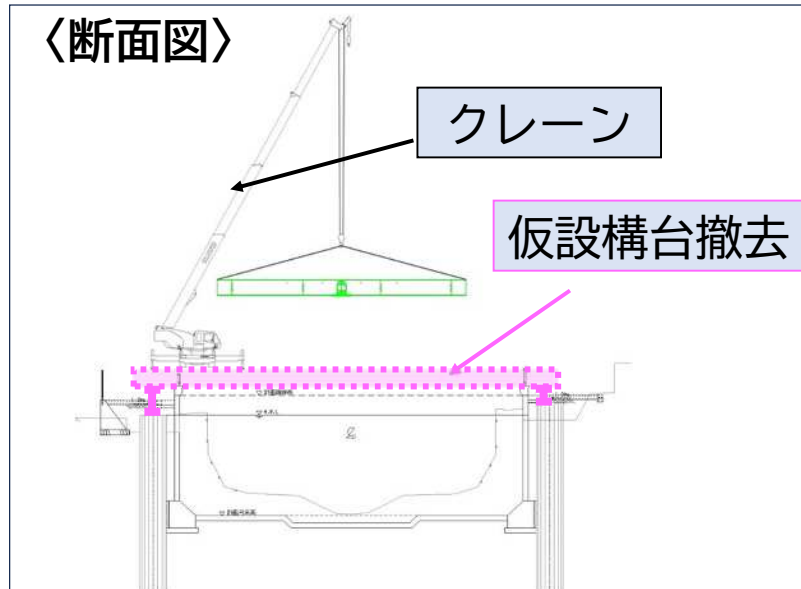
⑧管理用通路工



⑨片付け



〈断面図〉



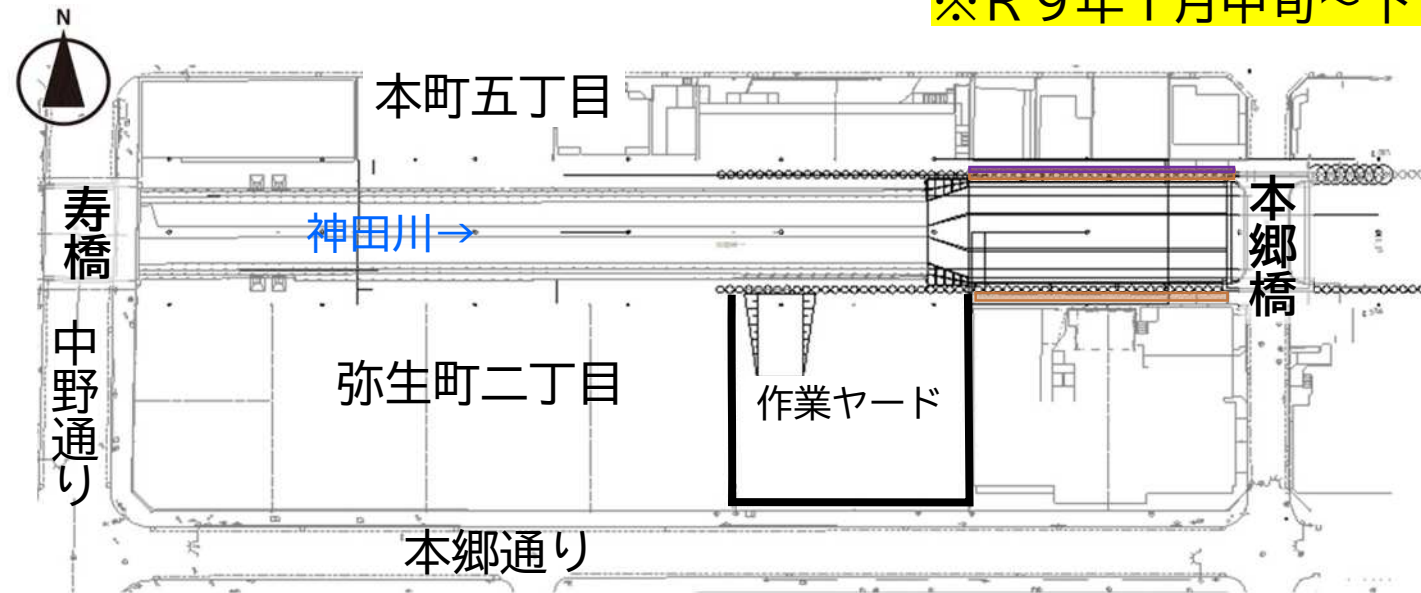
仮設構台撤去状況（イメージ写真）

施工フロー【⑧管理用通路工】

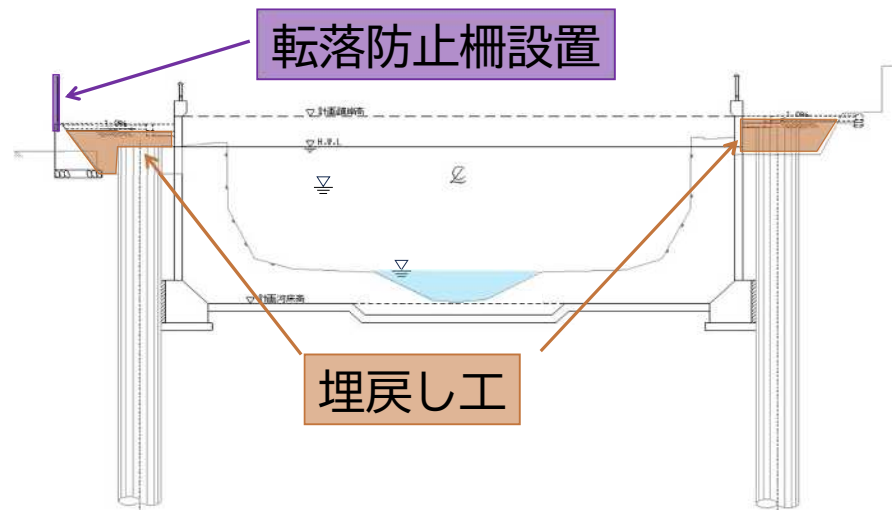
本郷橋上流約25m区間において、管理用通路部の埋戻しを行います。

また、左岸側の重力式擁壁に転落防止柵を設置します。

※R 9年1月中旬～下旬（予定）



〈断面図〉



工事に伴う環境への配慮

- ①場内待機車両・作業時以外のクレーンはエンジンを止めて**アイドリングストップ**を行います。
- ②使用重機は**低騒音型、振動型**を使用します。
- ③騒音の大きい機械は**防音シート等で養生**を行います。
- ④軽油の抜き取り検査を行い、**不正軽油の混入防止**を行います。
- ⑤当工事に伴って発生する地下水位の水位変化を把握するために、観測井戸にて、**水位確認**し施工の影響がないか確認します。



工事に伴う環境調査

当工事の施工に伴う、環境への影響を把握するための調査を行います。

○地下水調査

→当工事に伴って発生する地下水の水位変化を把握するために調査します。

(調査方法)

工事現場周辺に観測用の井戸を6ヶ所設置し、水位を継続的に調査いたします。

○振動・騒音調査

→当工事に伴って発生する振動・騒音を調査し、定められた基準値内か確認します。

(調査方法、頻度)

振動計・騒音計を用いて測定します。調査頻度は工事期間中に定められた工種毎（掘削工、埋戻し工、構造物取壊し工、運搬工、鋼矢板引抜工・打込工）に調査いたします。

○地盤変形調査

→当工事に伴って発生する地盤変形の大きさを把握するため、沈下量と変位量を調査します。

(調査方法、頻度)

高さ測量・座標測量により測定します。地盤変形調査においては、工事前・工事中（掘削工、埋戻し工、構造物取壊し工、鋼矢板引抜工・打込工）及び工事後に調査いたします。

お問合せ先

★神田川整備工事全般に関すること

東京都第三建設事務所 工事第二課 設計総括担当

⇒電話 03-3387-5367

★神田川整備工事（その158）その2 に関すること

東京都第三建設事務所 妙正寺川事業センター

⇒電話 03-3228-1419

★神田川整備工事（その158）その2 の内容や施工方法等の詳細に関すること

受注者：大木建設株式会社 担当：田中（たなか）

⇒電話 080-6859-8150

ご迷惑をお掛け致しますが、御理解・御協力お願い致します。